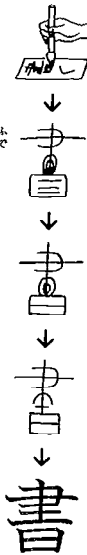


# 書

二年

画数 10  
筆順 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十  
オン シヨ  
クン かハク

成り立ち



手(三)に筆をもったかたちをあらわした「聿」と、かみのかたちをあらわした「冂」とをくみあわせたもので、「筆」をもって、かみに字を「かく」ことをあらわした字です。

また、「書いたもの(字)」のことを「書」といいます。「手紙」や「本」のことも「書」といいます。

〔古い字は、「書」で、「聿」と「者」との形声字だが、これでは子供に理解しがたい。「冂」は「者」の「目」だが、幸い紙の形をしているので、紙に見立てた。〕

# 少

二年

画数 4  
筆順 一 二 三 四  
オン シヨウ  
クン すくハナイ・すこハシ

成り立ち



「小さい」といういみの「小」の字に、「はらいのぞく」といういみの「ノ」をくわえて、「小さいものからさらにとりのぞいて「すくなくする」といういみをあらわした字です。「すくない」「すこし」といういみの字です。

また、「少年」というように、「年が少ない」ということから「わかい」「おさない」といういみにもつかわれます。〔例少壮(わかくて元気なこと)〕

使い方

▽ぼくは、おしゅうじきょうしつへ、いつています。筆で、白いかみに、大きな字を書くのが、とてもゆかいです。

▽わたしのうちには、えらい書家の書いた書があります。おじいちゃんがんばってくれましたが、むずかしくて、なんと書いてあるか、よくわかりませんでした。

熟語例

▽書家(書道のせんもん家。すぐれた書(字)を書くことを、しごととしている人)

▽書道(筆とすみで、たくみに字を書けいじゆつ)

▽清書(れんしゅうしたり、下書きしたりしたものを、きれいに書きなおすこと。また、その書きなおしたものの)

▽書記(人がいったことを、字にして書きとめておくかかりの人。書記すかかり)

▽書物(字が書いてある物、ということ。つまり、本のこと)

▽返書(返事の手紙。へんじ。ちよつと、かたくるしい、いかたです)

使い方

▽少年のさんかしやは減少しましたが、そのかわり、少女のさんかしやが増加しました。

▽少量ですから少額ですむとおもいましたら、多額だったのでおどろきました。

熟語例

▽少年(「年が少ない」といういみのことばで、十さいぜんごの子どものこと。小・中学生。「幼年」と「青年」とのあいだの男の子)

▽少女(十さいぜんごの女の子)

▽少量(量が少ないこと)

▽少数(数が少ないこと)

▽少額(金額が少ないこと。わずかな金額)

▽幼少(「おさない」こと)

▽老少(老人や幼児。力のよわいもの)

▽減少(減つて少なくなること)

▽少年老い易く学成り難し(年はたちやすいが、学問はなかなかすすまない。だから、少年のうちからどりよくしてべんきょうしなればいけない、というおしえのことばです)